第三十六回海軍記念日に因みて

海國日本魂

大阪地方海軍人事部指導

十二景

四ッ橋畔

文樂座

「海國日本魂」上演に就いて

松竹株式會社　白井松次郎

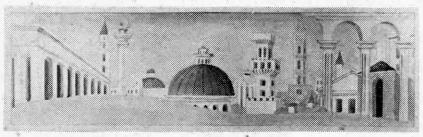
皇國海軍の武威は今支那沿岸並びに南洋海面に赫々と耀いて居ります。而して尚日本の高度國防には何んとしても海軍の力に俟たねばならぬところが多いことゝ承知いたして居りますが此時本年恰も第三十六回海軍記念日を迎へますることは誠に意義深く一層時局意識を痛感いたさるゝことでございます。就きましては弊社所屬各劇場に於きましても此絶好の記念日を協賛いたしまして各々その上演の特色に從ひまして海事思想を喚起いたしますると共に當文樂座に於きましても人形淨瑠璃といふ特種の藝術をもつて遠き古へより海國日本を繪卷物の如く寫し出し皇國海軍本然の姿を如實に現はすことに努力いたしましたが充分とまでは參り兼ねますが何卒其意のある處を御諒察くださいまして御觀覽の程を御願申上げます。

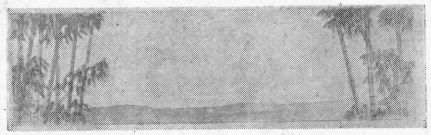
大阪地方海軍人事部指導
西亭作詞符・大塚克三舞臺裝置

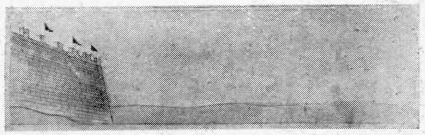
海國日本魂

十二景

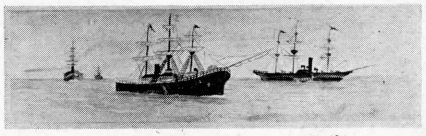
第一景　大海原

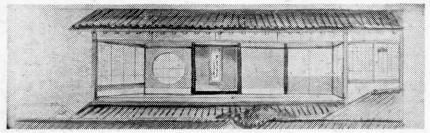

第二景　ローマ


第三景　竹林虎狩

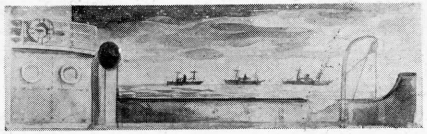

第四景　島夷

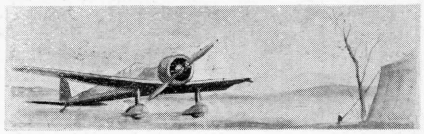
第五景　海岸

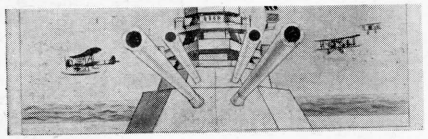

第六景　浦賀沖黒船の渡來


第七景　二志士の隠家

第八景　錦旗東征


第九・十景　旅順口・福井丸上船


第十一景　飛行基地


第十二景　軍艦旗掲揚

（床本）海國日本魂

第一景　大海原

夫れ皇國の大日本國是定まり給ひしより潮滿潤の二た御瓊海神の守らせて、八汐路治め參らする實に海國のありがたき。

第二景　ローマ

其の昔、夢も通はぬ外國に通へば通ふ鐵石心重き使命も三年越波路も長き長崎を幾艱難の憂月日今はいざよふ歳の春花のローマに晴着して心の意氣の日本魂今ぞ異國にかゞやけり。

第三景　竹林虎狩

皇神の御德頂く國性爺血に流れたる勇猛は弱きを助く日本の是ぞ誠の武士の道。

第四景　島夷（立廻り）

第五景　海岸

勇名は、こゝリゴールの國主とて、今を時めく長政が故國の便り吹送る椰子の葉風のサワ〳〵と來し越方の古郷をしのぶ夜すがの一奏で、長政『次郎右衛門殿妻が拙なき一曲も又思ひ出の事もあらん今宵一夜の御名殘りぢやのふ』次郎右衛門『長政殿殘り惜ふ存じまする、いつか又逢ふ其の日迄ずい分健固を祈ります』長政『夜もふくる明早朝の御出船、御引止めもなり兼申す……オヽ月が出た故國日本を出し月ぢや、思ひ出すに元和三年我等二十七歳の五月ぢや、若い心の功名心は廣い世界に天地を求め大和男の意氣をしめすも、男に生れた仕事の一つと御貴殿方の御朱印船に無理矢理に乘船を乞ひ早十年の憂艱難今此のシヤムリゴールの國主オークヤーセーナピモックと位人臣を極め申したが、次郎右衛門殿弱い心で云ふでは御座らぬ幾十年幾千里、道はへだゝり年經るとも、一時忘れぬ故國日本御國を思ふ一念はいつかな忘れは致しませぬぞ。イナ誠日本人なればこそ御國を思ふ一心は誰れよりも〳〵此長政猶一倍强ふ御座りまするぞ』妻『アヽ申貴方樣モウ御時間が』長政『イヤこれは不覺名殘りは盡きじ次郎右衛門殿』次郎右『長政殿』妻『ずい分御無事で』次郎右『おこともお二人樣にも』長政『健固で』互ひの目元はら〳〵〳〵握りしめたる手の内に通ふ血汐ぞ一つなれ。

第六景　浦賀沖黒船の渡來

燃ゆる心も戸ざされし、鎖國も爰に參百年今打破る一發の號砲浦賀に黒船の暗き夢路も覺されて黎明海國日本が今ぞ誠の姿なり。

第七景　二志士の隠家

（上略）中岡『君は舟〳〵臣は水〳〵』坂本『水良く舟を浮かべ〳〵てイヤ其れじやが中岡、お主は陸援隊長、わしは又海援隊長、今後のお主は陸軍で大いに眼張れ、わいは又勝先生に敎はつた航海學を基礎にうんと一層勉强して大いに海軍でがんばるぞ、今後の日本に海軍はなくてならぬ降魔の劔、護身の楯じやでの』中岡『そうじや、わしは最新式の兵法で最强の土佐藩陸隊イヤ日本陸軍の建設に努力する、君は海軍で大いに活動してくれ』坂本『やるぞ、文久の薩、英の戰も、畢竟薩摩の捨身の戰法功を奏してイギリスが戰意を失して逃げたればこそよかつたんぢや、後で調べたら海岸の薩摩の各砲臺はほとんど皆威しじやつたと云ふではないか、沿海防備の必要じや堅固でなくちやの、實に冷汗一斗はおろか百斗物ぢやよ、三百年幕府の鎖國は我日本の發展をどれ程後れさしたか、木造軍艦舊式砲でではの世界の各國に伍しては行けぬよ、國土の防衛は先づ外敵を防ぐ海軍に課せられた重大の責務じややるぞ〳〵』（下略）

第八景　錦旗東征（音樂ばかり）

第九景　旅順口

春未だ海上冷氣身に浸みて、四面暗澹旅順口、音なく進む福井丸。

第十景　福井丸船上

折しも探照一閃に擊出す敵彈雨あられ、廣瀨『杉野兵曹長ッ』杉野『ハツ爰に居ります』廣瀨『ウム杉野か用意は』杉野『とゝのひました』廣瀨『御苦勞デワ早速點火』杉野『ハツ』廣瀨『杉野ッ全員ボートに移乘したぞッ、杉野ッ……杉野ッ』……杉野ッ……憎や一彈中佐が胸、七生報國盡忠の念壯烈無双鬼神も哭く、廣瀨『杉野ッ……テヽ、天皇陛下バヽ、萬歳』冥せ幾多海軍の忠勇義烈の勇士の靈。

第十一景　飛行基地

敵の荒ぎもひしぎたる片翼飛行の沈勇は神も守らん其の神技、戰史に燦と輝けり、『樫村大手柄じやの、體當りの强膽、片翼の飛行の放れ業、共に日本魂の權化ぢや、世界戰史上の大記錄ぢや』稀へよ空の荒鷲を、空襲爆擊偵察に海に、平野に山岳に、譽れは高し我海鷲。

第十二景　軍艦旗掲揚

仰げ旭の御光りを、想へ四海の我國土、東亞の圏の廣き海、我海軍の責重し、今日は南の酷熱に、明日は北邊極寒に、氷雪風雨嫌ひなき、我海軍に感謝せん。

人形淨瑠璃五月興行